

# 論壇

## 世界あちこちで動き

トランプ政権の誕生、英国の欧州連合（EU）からの離脱など、保護主義的な動きが世界のあちこちで見られる。米国や英国の動きは、特定の国の変化として見逃すことのできるような軽い問題ではない。

まず米国であるが、この国の動きが重要であるのは説明するまでもない。米国はグローバル化の牽引役となってきた存在である。米国の政府や企業を抜きに、グローバル化を語ることは難しい。その米国の中心にある大統領であるトランプ氏が保護主義を振りかざし

## 伊藤 元重

学習院大教授（国際経済学）

ているのだ。こうした動きが世界にどのような影響を及ぼすのかが注目されるのは当然だ。

英国のEU離脱の動きであるが、英国という以上に、EUということに注目してほしい。第2次世界大戦から現在に至るまで、欧州諸国は着々と統合の動きを進めてきた。最初は石炭や鉄鋼など一

きな変化が生まれるのではないかと気になるところだ。

第2次世界大戦後、世界経済は着々とグローバル化の動きを進めてきた。GATT・WTOという国際的な枠組みを強化して貿易自由化を広げていった。国間、地域内の経済連携協定を進めてきた。企業もグローバル展開を進めてい

## 保護主義

### 1900年代の前半の教訓

部の分野での協力だったのが、貿易全般の経済統合に進み、そして1999年には共通通貨ユーロの採用にまで踏み切る。英国は通貨ユーロには参加していないが、欧州の統合の重要な存在ではあった。その英国がEUから離脱する。欧州全体の統合の流れにも大

だ、多くの専門家が指摘しているように、今から100年以上も前の1900年前後の世界は、グローバル化が非常に進んだ状況であった。金本位制の下で資金は世界を駆け巡り、米国などへの巨額の投資資金が欧州から流れ込み、欧州から新大陸へ大量の移民が流れ込んできた。貿易にも制限が少なく、活発な貿易が行われていた。

の原因の一つとなったことはよく知られている。世界経済は黙っていてもグローバル化していくわけではない。1900年代の前半の教訓は、流れが少し変わると世界経済は逆方向に濁流のように動いていく可能性もあるということだ。そうした変化の結果は悲惨なものになる。だから、米国や欧州で見られる保護主義的な動きは警戒しなくてはならない。幸い、今までのところ、トランプ大統領は大統領選での激しい発言通りの政策が実行できていくわけではない。欧州でも、保護主義を警戒する良識ある動きの盛り返しも見られる。すぐに悲観的になる必要はないだろう。それでも、保護主義の動きには注目していく必要がある。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。